

1、沖縄県知事及び県のこれまでのSDGs取組

- 1) 「誰一人も取り残さない」(SDGs 最終目標と同一)沖縄の実現を最大目標とし、第一の取り組みを万国津梁会議とする玉城知事当選。
- 2) 玉城知事による19年4月定例記者会見による発表。
万国津梁会議として、5つの部会を設置し、一つをSDGsの担当部会として、庁内に推進チームを作り、沖縄県がSDGsを重要な施策として導入することを発表。
「玉城知事は公約に掲げる『誰一人取り残さない社会』の実現に向け、国連が主導し日本政府も推進している『持続可能な開発』を国際目標に掲げる『SDGs』の推進に2019年度から全庁を挙げ取り組むことを強調した。環境、健康、食料、教育、貧困、平和など17分野の社会課題を30年までに達成することを目指し、県庁内に推進チームを設置する。」(琉球新報4月19日付)
- 3) 全庁的な取り組みが可能な体制の構築
SDGs推進本部(幹部会議)の設立の必要性和SDGs推進チームの本務化(専従)

2、沖縄らしいSDGsとは

「21世紀に求められる人権尊重と共生の精神を基に時代を切り開き世界と交流し、ともに支え合う平和で豊かな美ら島沖縄」(21CV)。現行振興計画の第一基軸は、「国内外の対地域と交流し共生する」、「地域の内外からの多様な主体の参画を促し、社会のきずなで支えられたコミュニティを形成する」ことによって、すべての人々が「安全で安心して生活できる沖縄らしい優しい社会」

「誰一人も取り残さない沖縄らしい優しい社会」すべての人の尊厳=人間の安全保障を、国・県内外の多様な主体との交流と多文化共生社会によって実現する。

→ 「グローバル・パートナーシップの促進による人間の安全保障の実現」

国際連携推進システム(国・県内外の多様な主体との連携エンジン)

連携推進の基金

3、いつから何を着手し、いつまでに何をすべきか

- 1) 「19年度から全庁を挙げて取り組む」とは何か

①SDGs 5Pの分野の県民円卓会議の開催

SDGs推進万国津梁会議の下に、SDGs県民円卓会議をSDGs 5Pの分野(People, Planet, Prosperity, Peace, Partnership)で設けて、広く県民・ステイクホルダーの参加の下にSDGsの中で沖縄県民が優先すべきと考える課題を明らかにする。

第一弾 9月開催 喫緊でかつ最重要な課題と最も重要な理念を出す→短期計画の作成へ

第二弾 3月開催 振興計画とこれまでの取り組みでSDGs不十分な課題を出す→長期計画へ

②17目標169ターゲット(全課題)と振興計画のすり合わせ

SDGs17目標169ターゲット(実質は110程度)対して、現行沖縄振興計画(20年構想、10年基本計画、5年実施計画)上の課題及び施策のどれが合致し、どれがSDGsの課題としてどれが不十分か、どれが達成しているのかを洗い出してマトリックスを作成し報告書として出してもらい、同時に県民・ステイクホルダーの考える重要課題の報告書を県民円卓会議の成果としてここで受け取り、SDGs提言書を提出する。(★沖縄県の包括的な課題解決のための体系は、沖縄振興計画とそれに基づく予算・施策・事業とその評価システム)